
痕

慧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
痕

【Nコード】
N6992N

【作者名】
慧

【あらすじ】
別れた彼を忘れられない、その気持ちは何と呼ぶのでしょうか。

（前書き）

別れた彼を忘れられない、その気持ちは何と呼ぶのでしょうか。

ちよつと暗いお話。

まだ、涙が出た。

深夜にひとり、部屋で膝をかかえる。

膝の間に顔をうずめて体を小さく丸めた。

このまま、小さくなって、そのまま消えてしまえたら楽なのに。

その考えに小さくわらう。

そんな夢想をするより、簡単に消える方法なんていくらでもある。

引き出しに入ってる刃物で手首を切つても、そのベランダから飛び降りても、世界から消えることができる。

それをしないのはまだ心のどこかで希望を抱いているからだ。

彼が「今までのことはウソだよ。」と笑って会いに来て、抱きしめてくれるのではないかと。

いまだき、身分違いの恋なんて物語の中の事だと思っていた。ただ彼と会ってから、今でもあることなのだと身を持って知った。知人の紹介で出会った旧華族という彼。

「初めまして、よろしくね?」

初めはただ柔らかくわらう人だと、そんな印象だった。

そこから、彼の秘められた熱を知っていくにつれて惹かれていった。

それでも、この人の傍でふたりで幸せになるのだと、ぼんやり夢見ていた。

「僕は望みを諦めない。」

小さな彼の幸せと、彼の実の家族の命を奪った親族に復讐をするのだとわらった。

そのために好きでもない女と結婚するし、子作りだつてするのだと、穏やかにわらった。

わたしはそのときに初めて最初から彼の描く人生にはいなかったのだと、悟った。

「さようなら。」

最後まで、穏やかにわらつて彼は別れを告げた。

1ヶ月経つても、頭から心から、体だつて彼を忘れることができない。

もう、指が覚えている彼の携帯番号。

ゆっくり震える指で最後のボタンを押せば、聞こえるコール音。

番号を変えることだつてできるのに変えずにそのままなのは、捨てきれない彼の優しさなのか、ずるさなのか。

そんなのはどっちだっていい。

『・・・はい。』

「わたし、です。」

あなたの、これからにわたしがいる隙間があるならば、

「あのね、」

わたしは、そこにしがみつく。

「あなたをあいしているの。」

この気持ちが憎しみなのか愛しさなのかもうわからない。
手首を切って消えてしまった方が、苦しくないかもしれない。
ただ、あなたと人生に痕を遺させて。

「あなたをあいしているの。」

（後書き）

生きる中でいろいろな人と関わっていくけど、その中で忘れられていくのは悲しいよな、と思って思いついたお話です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6992n/>

痕

2010年10月20日19時24分発行